

東京 IPO 特別コラム

2017年3月31日 Vol.73

概ね順調だった3月のIPO市場

3月のIPOは本日のネットマーケティング(6175)で終了。相次ぐIPO銘柄の登場で市場関係者はお疲れのことかも知れませんが、21の3月IPO銘柄のうち公開価格を2倍以上上回って初値をつけた銘柄は10銘柄にも達する一方で初値が公開価格を割り込んだ銘柄はマクロミル(3978)、スシロー(3563)の2銘柄に留まり、3月のIPO市場は銘柄が多くてやや消化難になるかと思われましたが概ね順調な展開を見せたと言えます。少ない公開株数の銘柄は好需給の下で上場初日に値が付き、2日目ではようやく値が付くといったことが相次ぎました。本日2日目で値をつけたビッグデータ、AI関連のユーザーローカル(3984)は公開価格2940円に対して初値は4.25倍の12500円をつけるなど時流性の高いテーマへの投資家の関心を伺わせます。

初値で買った投資家が10%以上のリターンを得るチャンスがあったと見られる銘柄はうるる(3979)、ジャパンエレベーター(6544)、TKP(3479)、No.1(3562)など9銘柄となり、中には本日ストップ高を演じたファイズ(9325)のように初値から5割高を演じた銘柄、同様に初値から一時6割以上の上昇を見せたラーメンチェーンー風堂を展開する力の源ホールディングス(3561)といった銘柄もありそれぞれに初値買いで比較的大きな成果が上がった可能性があります。どちらかと言えば需給の良さに支えられたマザーズ銘柄の値動きが堅調で、東証1部に上場したマクロミルやオークネット(3964)、スシローといった大型IPO銘柄はかつての上場銘柄であり、業績は安定していて買い安心感はあるものの公開株数の多さが目先の株価の動きに重しとなった感があります。

著名人の経営で話題を呼んだ3月16日にIPOを果たした、ほぼ日(3560・JQ)は初値こそ人気化し公開価格の2.28倍の5360円となりましたが、残念ながらその後は4000円台前半での調整を余儀なくされました。同様にロコンド(3558)、ピーバンドットコム(3559)、ズーム(6694)など初値から20%~30%の調整が見られる銘柄もあり、堅調な値動きを辿る銘柄との間で二極化の動きが見られます。IPO後に市場での評価が定まらずに推移するこうした銘柄にはIR活動を通じて事業内容や将来性をアピールすることができれば再び注目を集めるチャンスはあると思われます。相次ぐIPO銘柄の登場で消化難に陥る銘柄も出てきていると見られますが、そうした局面だからこそしっかりとIRに努めてほしいものです。

そうした意味で本日JASDAQに上場したネットマーケティングはIRに熱心でもあり要注目。公開価格1140円に対して36%の上昇した1552円で初値が付き、終値は1630円。比較的穏健な上場となったようですが、広告主企業に対し、アフィリエイト広告を用いたマーケティング活動を行う広告事業や恋愛マッチングサービスなどの運営を行うメディア事業を展開する同社の成長意欲は強く足下の業績も堅調な

東京 IPO 特別コラム

ことから今後の展開が注目されます。

4月のIPOも既に6日のテモナ(3985)などを中心に5銘柄が予定されていますが、3月に比べると大幅にIPO銘柄の数は減る予定です。おそらく5月も昨年と同じならゼロとなりますので皆さんの関心は1-3月銘柄に加え2016年にIPOした銘柄などに移ってくるのかも知れません。そこで本コラムでは2016年2月から12月に上場したおよそ82の銘柄をチェックし、その中の活躍銘柄に焦点を当ててみたいと思っております。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)